



黄秋園「空谷幽居图」

日中国交正常化25周年記念／江蘇省美術館所蔵

20世紀の中国絵画展

1997年 8月5日[火]~9月21日[日]

渋谷区立松濤美術館

【開館時間】午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel.03-3465-9421

【休館日】8月10日回、11日月、18日月、25日月／9月1日月、8日月、14日回、16日回

【入館料】一般300円／小中学生100円／65歳以上の方及び障害者の方は無料

【主催】渋谷区立松濤美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会 【後援】外務省／中国大使館 【協賛】花王株式会社

20世紀の中国絵画展

20世紀の中国社会は、辛亥革命、日中戦争、中華人民共和国の成立、文化大革命などを経て、政治的・社会的に激変しました。そして今日、改革開放政策の下に新たな道を歩んでいます。

絵画の世界でも、政治的、社会的、そして思想的な影響を受け大きな変革が見られました。従来の古典的文人画から国画へ絵画の主流は移り、日本や欧州への留学生がもたらした日本画や西洋絵画の影響により、その国画も変貌していきます。また、絵画の学習方法も、従来の臨摹を中心とする方法から学校教育中心に変わっていききました。さらに、中華人民共和国成立後は、同じ山水画や人物画を描いても、そこには祖国の発展を、或いは国家建設に邁進する人民の姿を描くなど主題も変化をとげていきました。文化大革命時代には、多くの画家が、他の知識人や文化人と同じように迫害を加えられ、描かれた作品も時代を反映した独特のものとなっています。そして、近年の改革開放政策のもとで、作風はより自由に、主題も多種多様なものとなっています。

本展では、国画の展開に関わった呉昌碩(ごしょうせき)・黄賓虹(こうひんこう)に始まり、日欧へ留学し新風を吹き込んだ徐悲鴻(じょひこう)・傅抱石(ふほうせき)、学校教育に深く携わった劉海粟(りゅうかいしよく)・陳之佛(ちんしふつ)、また、文革時代を反映する蔣兆和(しょうちょうわ)・銭松岳(せんしょうがん)、現代画壇に活躍する傅小石(ふしょうせき)・石大法(せきだいほう)などの中青年画家の作品併せて100点を陳列し、今世紀の中国絵画の展開の軌跡を顧みます。

本展を通して、新たな道を歩みつつある隣国中国への理解をより深めていただきたいと思います。



呉昌碩「菊花図」



劉海粟「黄山百丈泉」



蔣兆和「女民兵」



傅小石「鍾馗」



傅抱石「虎踞龍盤今勝昔」

【講演会】9月6日 土午後2時～

「中国近代絵画に及ぼした日本美術の影響」 東京国立文化財研究所 美術部長 鶴田武良

【美術映画会】

8月23日 土午後2時～

「漢詩紀行 李白」

「漢詩紀行 杜甫」

9月13日 土午後2時～

「漢詩紀行 白楽天」

「漢詩紀行 李白と杜甫」

【美術相談】

8月31日 日午後2時～4時

西嶋俊親(洋画家)

戸田康一(日本画家)

9月21日 日午後2時～4時

高田明義(洋画家)

林美紀子(版画家)

